大阪TOWN 元気じるし！

エネルギッシュに活躍
女性経営者を紹介

女性パワーで、大阪に活力を―。こんな元気いっぱいの夢を掲げて、エネルギッシュに挑戦し続けている女性経営者らがいる。「元気人間製造研究所」代表で、こめ太郎副社長の森重子さん（60）＝堺市北区南花田＝、システム開発などを手掛けるディプロム社長の貴島清美さん（45）＝大阪市中央区南船場2丁目＝らは、それぞれの持ち味を生かしてリーダーシップを発揮。2人とも「人間大好き」と語り、「人」をキーワードにしたビジネス展開で、世界的な経済不況が深刻化する中にあって、着実に飛躍を続けている。その2人を紹介する。（猪口隆）

コンピューター軸に多角化成功
貴島　清美さん

常に挑戦し続ける

「一人の女性として、可能性に挑戦し続けたい」―。こう語る貴島さんは、旺盛なチャレンジ精神をバネに、新規事業を切り開いてきた。IT事業を軸にWEB制作、フォトスタジオ運営、人材派遣業などを展開。「お客に喜んでいただき、地域社会の発展に貢献できるよう、未来社会のビジネスをクリエートする大きな力でありたい」と夢を語る。

父の背中

同親は二十歳で結婚。その長女として、「自らベンチャー企業を立ち上げた父の背中を見ながら、自立していくための経営者的な感覚を自然と身に付けていきました」。また、「言は身を助ける」という、父のアドバイスで、幼少時から華道、茶道、書けばに親しみ、資格を取得。こうした「いろいろなことを通して、特技を持つこと、技術習得の大切さを学んだ」。

「これからはコンピューターの時代」と大学卒業後、大手の情報処理会社に就職。スキルの高さが認められ、入社二年目で班長になり、二十五歳の時には係長へ。クライアント先の部署四十人余りを指導するなど、女性幹部として、大きな期待がかけられた。

「可能性に挑戦し続けたい」と語る貴島さん

しかし、母が病気の中、「家庭環境などが変わっても、自分にしかできないことを武器に働けるようになりたい、と強く思いました」と当時を振り返る。

会社立ち上げ

自分にしかできないことを模索しながら、専門学校からコンピューターの授業の講師要請があり、広告制作などを指導。「学生たちが卒業後も生かせる実務的な内容に」と、企業のチラシ制作などを受注し、ビジネスに生かせるコンピューターの活用などを教えた。

そのうち、大規模な仕事が舞い込み、三十人のスタッフを集めて一九九二年、「ディプロム」を立ち上げた。九九年に法人化し、現在の年商は一億円（二月決算）。今期は三億円を目指している。

「クライアント先の経営環境により、一千万円規模の赤字が続いたことがありました。しかし、写真のデジタル処理技術を生かした新規事業の成果などもあり、経営を再建。フォトスタジオの運営は事業の柱の一つに育っています。人のつながりを大切に、今後も事業展開していきたい」と語る。

人脈づくりに力

大阪府中小企業家同友会女性部のメンバーとしても奮闘しており、「女性が伸び伸びと働けるような職場づくりのため、仲間と力を合わせていきたい。悩みや問題を抱えている人たちの手助けができれば」と目を輝かす。

また、人脈づくりにも力を入れており、先月、「ソーシャル・アントレプレナー・ネットワーク」を大学講師や専門家らと発足させた。「国際的な人的ネットワークをつくり、あらゆる情報を共有。自社の発展だけでなく、地域社会や経済発展に役立つ新ビジネスの構築なども考えていきたい」と話している。

仕事の合間を縫ってサルサダンスやヨガを楽しんでいる。すべてにフル回転の中での忙中閑あり。「最高の息抜き」と笑顔を浮かべる。